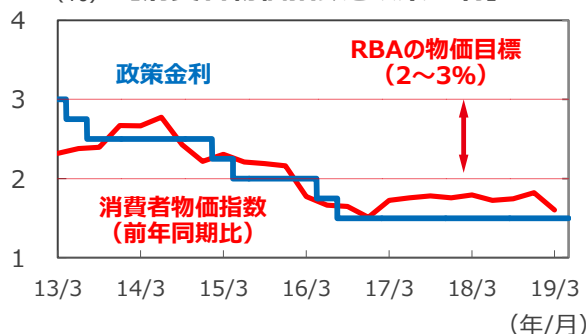


今日のトピック 豪州の金融政策は今回も現状維持（2019年5月）
利下げ期待は一旦落ち着き、米中協議の行方に注目
ポイント1
**金融政策は現状維持
政策金利は1.50%に据え置き**

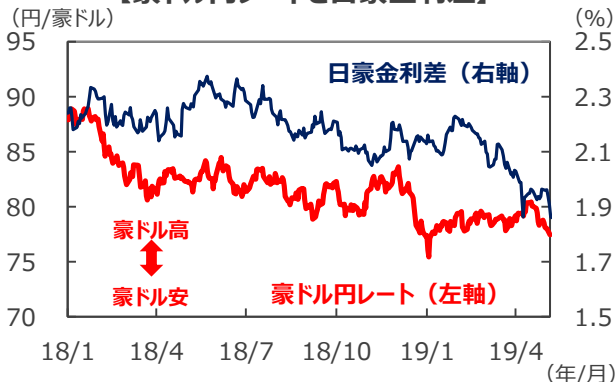
- 豪州準備銀行（RBA）は、5月7日に開催した金融政策決定会合で、政策金利を1.50%に据え置きました。

ポイント2
**インフレ見通しを下方修正
一方、労働市場は依然堅調と指摘**

- 4月24日に発表された2019年1-3月期の消費者物価（異常値をつけた項目を除外したトリム平均値）は前年同期比+1.6%と、市場予想の同+1.7%や、RBAが目標とする前年比+2~3%を下回りました。
- 今回のRBAの声明文では、直近の消費者物価の結果を受けて、インフレ見通しを2019年は1.75%、2020年は2.00%と、前回声明文から0.25%ずつ下方修正しました。
- 一方、労働市場については依然強いと指摘しています。失業率については、当面は3月実績と同程度の5%前後の水準が見込まれるとしたものの、2021年には4.75%まで低下するとの見方を示しました。

（%）【消費者物価指数と政策金利】


（注）消費者物価指数は2013年1-3月期～2019年1-3月期。消費者物価指数は異常値をつけた項目を除外したトリム平均値。政策金利は2013年3月31日～2019年5月7日。
（出所）Bloomberg L.P.、オーストラリア統計局のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【豪ドル円レートと日豪金利差】


（注1）データは2018年1月1日～2019年5月6日。
（注2）金利差は豪州-日本。金利はともに3年国債利回り。
（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開
**利下げ期待は一旦落ち着き、
米中協議の行方に注目**

- 消費者物価が低水準だったことから、豪州の3年国債利回りは1.2%台と歴史的な水準にまで低下し、利下げ期待が高まっていましたが、声明文発表後には1.3%台に戻っています。また為替相場は豪ドル高方向で反応しました。RBAは労働市場の動向などについて注意深く見ていくとしています。
- 一方で、5月5日にトランプ米大統領が対中追加関税を25%へと引き上げると表明し、米中貿易協議の先行きに不透明感が高まっています。中国は豪州の主要貿易相手国であり、米中貿易協議の進展によっては世界経済の成長も懸念されるため、今後の動向に注目です。

**ここも
チェック!**
2019年4月26日 投資環境の見通し（2019年5月号）
2019年4月19日 上昇に転じた豪ドル相場（2019年4月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。